

## 医心 伝心

# 平成29年のスギ花粉飛散は「やや多い」

県医師会理事 河合 晃充

さて、年が明けて平成29年となりました。スギ花粉の飛散開始が近づいてきています。富山県森林研究所は、昨年11月下旬に県内13カ所で行ったスギ雄花の着花量調査の結果を踏まえて、今年のスギ花粉飛散量の予測を発表しています。それによると今年のスギ花粉飛散量は平野部で1cm当たり約4000個程度と平均値の2933個の1.4倍程度で、やや多くなる見込みです。スギ花粉の飛散量は雄花が着花し始める夏の天候に強く影響を受け、日照時間が長いほど多く着花する傾向があります。平成28年の夏の平均日照時間は平年より長く、着花に適した気候となりました。最近では夏の日照時間は安定して長い傾向があり、スギ花粉の飛散数にその影響があるようです。ただ、実際の飛散数は、近接するスギ林までの距離や風向きなどの影響を強く受けるため、場所によって大きく異なります。本県の場合、スギ林が集中している山沿いの地域で飛散量は多く、海岸線に向かうに従って減少する傾向がはっきりしてきました。しかし、スギ林に隣接した場所では、予想をはるかに超える花粉が飛散することもありますので注意が必要です。

県医師会花粉症対策委員会では3年前より、ウェザーニューズ社のポールンロボというリアルタイムにスギ花粉の飛散状況が把握することができる機器を県内各地に設置し、誰でも無料で情報が得られるサービスを始めています。今年も県内12カ

所に機器を設置し、県医師会のホームページよりリンクという形で情報提供を行う予定です。また、従来のダーラム法という飛散スギ花粉数を実測する方法と比較し、正確性の確認を並行して行っています。また患者動向調査も継続します。

鼻アレルギーに対する治療法として、昨年診療ガイドラインが改訂されました。舌下免疫療法について、点鼻薬の位置付け、治療における疑問点に対するQ&Aなどが新しくなっています。スギ花粉症に対する治療としては、症状が悪化する前より薬剤の投与を始める初期治療と呼ばれる治療法の有効性が確認されてきています。投与開始時期は症状がまだ出ていない場合、飛散開始日から良いことがわかってきました。飛散開始日は気温に大きく左右されます。1月からの積算温度がある温度に達すると開花し、飛散が開始されます。このため、1月と2月の気温が低ければ開花は遅れ、気温が高ければ開花は早まります。今後の気温の経過に注意していかなければなりません。また、久しぶりに新しい抗ヒスタミン剤も使用できるようになりました。適切な対応や治療法の選択には迅速で正確な情報が必要とされると思われます。少しでも皆様に貢献できるように調査および情報発信を行っていこうと思っています。

富山県医師会ホームページ内（花粉症情報）  
[\(http://www.toyama.med.or.jp/kenmin/kahun/\)](http://www.toyama.med.or.jp/kenmin/kahun/)  
 に『医療機関掲示用チラシ』を掲載しておりますので、ぜひご利用ください。